

第4回海陽町学校のあり方検討委員会
議事録

日 時：令和4年8月24日（水） 10:00～11:35

場 所：海南文化館 大会議室

出席者：委員16名中9名出席（別紙名簿参照）

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長、森崎教育次長、浦川主査
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子、佐々木

■議事1 海陽町学校のあり方基本方針・骨子案

（登井委員長）

海陽町学校のあり方基本方針・骨子案について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局・森崎教育次長から説明

（登井委員長）

ただいまの事務局の説明について、ご質問はありませんか。

（辻委員）

学校のあり方の通学区域について公共交通と書かれていますが、町営バスなどを利用するということでしょうか。

（事務局・森崎教育次長）

JRなども考えていきながら、基本的には町営バスを中心に想定しています。

（井口委員）

学校の跡地利用については、この学校のあり方検討委員会だけでは不十分で、住民の意見を反映できないところがあると思います。例えば、地域の防災を考えている人などの意見を聞いていくには、どのような形で進めていく予定でしょうか。

（事務局・森崎教育次長）

これはあくまでも、学校のあり方検討委員会としての考え方ですので、跡地利用につきましては、その財産が行政財産から普通財産に変わった際に、どのように活用されるかについては、町長部局も含めて検討していくなかで、学校のあり方検討委員会から出た答えとして参考になろうかと考えています。

(井口委員)

いろいろな検討会から意見をあげていくということでしょうか。残った財産の使い方については、学校のあり方検討委員会としてはこうだけれど、防災の立場からはこうといったように、いろいろとあがっていくということですか。

(登井委員長)

事務局、それでよろしいでしょうか。

(事務局・三浦教育長)

前回の海部中学校、浅川小学校、川上小学校の再編・統合の際には、なかなかそこまで踏み込んだ跡地利用について提示ができていませんでした。今回は、再編・統合になった場合について、いろいろな形でいろいろなところから声を聞きながら示していければと考えています。

(登井委員長)

他にありませんか。じっくりと考えてください。意見がないようですので、議題2のアンケート調査の結果(速報版)を先に説明していただいて、それも含めて意見や質問をいただくというように進めてもよろしいですか。

(異議なし)

(登井委員長)

それでは、事務局からアンケート調査の結果(速報版)について説明をお願いします。

■議事2 アンケート調査の結果(速報版)

事務局・森崎教育次長から説明

(登井委員長)

ただ今の事務局の説明につきまして、ご質問やご感想でもいいですのでありませんか。

(皆津委員)

感想ですが、随分前の私が現役時代から小学校2校・中学校2校体制ということを進めてきたつもりですが、アンケートをとってみますと賛成が53.0%ということで、もっと広まっているものと思っていました。大きい、小さいに関わらず、地域における学校の存在意義というものを実感しました。

(谷本委員)

小学校1校・中学校1校体制では反対の方が多いのに、2校・2校体制になると賛成の方が多いということで、やっぱり中央には小学校と中学校を残してほしいという声が多いと受け取りました。海部小学校では児童数が減ってきて、1人だけが県大会に行くとなった場合、海南小学校と一緒に練習を急にしないといけない状況で、子どもだけでなく保護者の負担も大きくなっています。また、先生の数も減っているなか、先生が学校を維持していくことも厳しくなっているのかなと感じています。

(登井委員長)

アンケートの回収率について、保護者が55.1%、町民が42.6%という数字をみて、事務局はどのように感じられましたか。

(事務局・森崎教育次長)

保護者につきましては、兄弟などはできるだけ被らないように配慮しましたが、差し控えがあったのかなと考えています。町民の方からの回答につきましては、特に高齢の方は学校との距離が遠くなっているのかなと思っています。新生児の保護者が15人、16歳から19歳までが35人、20代が50人、30代から50代までがそれぞれ100人、60代が50人、そして70代以上が50人に配布しました。町民の回収率はこれくらいかなと思いますが、保護者の方の回収率は若干低いように感じます。

(事務局・安孫子)

有効回収率の数字でそれが成立するかの判断は非常に難しいですが、一般的に国や自治体が行っているアンケートでは、30%の時もあれば50%、80%もあり、それらすべてが成立しているのが見解です。統計学的にも、100以上あれば成立するとされていますので、私どもとすれば成立するものとして、またあくまでも参考として傾向を把握しています。

(登井委員長)

回収率の高い・低いはよくわかりませんが、このくらいかなと思って質問をしました。

(皆津委員)

事務局に対してですが、町民からアンケートに関する質問などはありませんでしたか。

(事務局・浦川主査)

ありませんでした。

(登井委員長)

皆津委員さん、町民の皆さんからどのような質問が予想されたのですか。

(皆津委員)

全体的なこととして、小学校2校・中学校2校体制について、私の感想とは違っていただけ。

(登井委員長)

2校・2校体制がもっと高くなると個人的に思われていたということですね。皆さんはいかがですか。もっと広まっていると思っていたとか、こんなものではないか、もっと低いのではないかなど、ご自身の感覚としていかがでしょうか。

(井口委員)

統合はやむを得ないという考えと統合すべきという考えが、小学校では54.7%、中学校では60%程度となっていますので、小学校2校・中学校1校体制であれば、また意見が違ってきたのかなと思います。今回、1校・1校と2校・2校という選択肢でしたが、一番ネックになってくるのが那佐湾と穴喰だと思いますので、穴喰小学校のあり方などの意見を考えると小学校は2校、けれども中学校になったら部活動の問題など、今後高校に向けて競技や勉学も高めていきたい、競争意識を持たせてやらせたいという親もいるでしょう。通学の安全の面でも小学校より中学校の方がリスクが低いとなると、中学校は1校でもいいのではないかという意見が出てくるかもしれません。1校・1校と2校・2校という判断だけでは天秤にかけにくいところがあったのかなと思います。

(事務局・森崎教育次長)

おっしゃる通り、将来的には2校・2校から2校・1校体制などといったような傾向が今後の分析の中で出てくる可能性があるのかなと感じています。

(事務局・三浦教育長)

平成20年度の統合計画に、2校・2校体制を維持するなかで、児童生徒数を見ながら最終的には1校・1校体制についても協議をはじめなければならないということがあったので、アンケートではそれを尊重した選択肢にしました。それから時間がたっていますので、井口委員からあったようないろいろな意見を汲み取っていきたいと思います。それから、アンケート結果については、これからの保護者の割合と既に子育てが終わった方の割合が混在していますので、それをしっかりと見極めて割合を捉えたいと考えています。

(事務局・安孫子)

その通りで、分析の方針としましては、40代以下と50代以上といった2つの年代と各

小学校区をかけあわせた6つの分類で大きく見ます。あと、設問同士のクロス集計としましては、再編・統合はやむを得ないと避けるべきの2つで分析をしていこうと考えています。それから、自由記述の意見についても、校区と年代で分類ができますので、より多く出てくる単語などに注目しながら集約をしていきたいと思います。文章については数の多さではなく、こういった意図のものが多く出てきているかというようなまとめをして傾向をみたいと思います。

(登井委員長)

いまの説明に対して、さらに質問や意見などございませんか。

(元木委員)

自由記述の意見については枚数が多くて、これだけいろいろな人が再編・統合についてたくさん意見が出てきているのがすごいなと思っています。これらの意見を単語や年代別に分けていただいて、それを踏まえながら、しっかり考えていければいいなと思いました。

(登井委員長)

大事な意見がたくさん入っていますので、次回に活かしていきましょう。両極端な意見があったり、いろいろな意見があるので、読んでみて自分自身どうしたらいいのか悩むこともあります。ぜひ目を通していただければと思います。分析につきましては、次回アンケート調査がきちんとまとまり、さらに深い話し合いができるような形ですすめていただければと思います。他に質問ございませんか。

(辻委員)

小学校に求めることで、「放課後や週末等の子どもたちの活動拠点(居場所)を提供する」とありますが、いま穴喰、海部、海南で放課後子ども教室をしています。やっているにも関わらず、まだ46.0%の人が求めているというのは不思議で仕方ありません。これは、小学生の保護者の答えか町民全体の答えかわかりませんが、本当にそうなのかなと思っています。

(登井委員長)

谷本委員の意見もちょっと聞いてみたいと思います。

(谷本委員)

いつも頑張っています。充分でないかもしれませんが、まだ地域に浸透していないところがあるのかなと思います。

(事務局・森崎教育次長)

海陽町の放課後子ども教室は、町内に児童館がないことを受けまして、預かりを含めた親御さんへのサポートという部分は、宍喰のドリーム館と海南子ども館は文部科学大臣賞まで受賞しているくらい活動も県下でトップクラスです。この選択肢を少し読み込んでみますと、放課後や週末等となっています。自由記述の中にも、教育委員会管轄ではございませんが、学童も含めたところの土曜日であったり、長期の休みであるとか、その学童の部分にかなりウェイトが置かれているのではないかなと思います。特に学童については、宍喰の方が不便だという意見が自由記述の中にございました。恐らくその部分が大きく出ているのではないかなと思います。小学校区において3か所とも放課後子ども教室がございまして、いま現在おおよそ8割を超えて9割くらいの方が小学生についても登録されている状況ですので、この部分は週末等であるとか、長期の休みかなと事務局では考えています。

(事務局・三浦教育長)

私の個人的な見解は、「居場所の提供」について、小学校では求めることの1番目、中学校では5番目ということで、肯定的な意見ではないかと捉えています。これは是非続けてほしいという風に受け取っています。一番大事なので、再編・統合したとしても、しっかりやってくださいよというメッセージかなと感じています。

(辻委員)

自分たちがやって、こんなに子どもたちが来ているのに、なぜ求めるのかなという気はしていました。

(皆津委員)

保護者のなかでも、学童と放課後子ども教室をわけることができている人がいるのかもしれない。保護者にとっては区別がつけにくいかもしれないので、発信していかないといけませんね。

(事務局・三浦教育長)

自由記述のなかに「学童を宍喰にもつくて欲しい」、「遠いのでなかなか行きづらい」といった声もありました、

(登井委員長)

「1日あたりの金額がちょっと高いので」といったような、気になることも書いてありましたね。

(谷本委員)

1日800円で、半日400円で預かりをしています。午前中は学習支援をして、午後は工作をしたり、おやつを提供したりしています。全力を尽くしてやっていますが、このような意見もあるんだなということで、やっぱり学童も放課後子ども教室もまだまだ浸透していない、アピールしていかないといけないなと思っています。利用者からすると、兄弟で何人も利用している人もいますので、毎日支払うのは負担になるかなと思います。

(事務局・森崎教育次長)

学童は福祉人権課の管轄でやっているところですが、少子化検討委員会とか子どもあゆみ基金とかを駆使しながらサポートできればと思います。ただ、放課後子ども教室は国の補助を受けて事業を展開していますが、自己負担は最初に入る保険代のみですので、これは比べるものではないのかなと感じています。

(皆津委員)

私も宍喰の放課後子ども教室に行っていますが、個人的には保護者は夏休みの期間はできるだけ子どもとふれあう機会をもってほしいと思います。

(辻委員)

夏休みは海陽町で1つということで、厚労省の管轄で岸先生のところが委託を受けています。1か所ですいているので、宍喰の方はなかなかこちらに来ていただくのが大変なところもありますので、その辺りもまた考えて、2か所くらいでできれば一番いいかなと思います。厚労省の管轄なので、また考え方も変わってくるかもしれませんが。放課後子ども教室は今のところ3か所でやっていますが、それも知らない方もいらっしゃいますし、学童とごちゃ混ぜになっている人がたくさんおられますので、その辺りの説明もしていかなければと思います。

(登井委員長)

ありがとうございました。他にありませんか。

(谷本委員)

小学校2校体制のところでは補足で意見を言わせてもらいたいのですが、海部小学校の保護者の中には、海部小学校が海南小学校と合併するだけではなくて、海陽町で1つになるんだったら合併したいという声があります。大きいところに、いきなり少人数校が吸収合併されるのは、少人数の学校からすると行きにくいと思っている保護者の方もいます。特別支援の子どもさんも多くて、少人数校でも学校に行きづらい子どもさんは、ますます行きにくいということになってはいけないので、やはり子どもにとって一番いい教育環境をつくってほしいという意見が多く聞かれます。

(登井委員長)

ありがとうございます。小学校2校・中学校2校と出ていますが、ちょっとその辺りも考えて欲しいという意見もあるということですね。他に何かございませんか。

(福田委員)

放課後子ども教室の運営は非常に大変だと日頃感じています。どうしても、学校と地域との線引きというのが非常に難しいです。放課後子ども教室では、学校ではない子どもたちがたくさん見られます。ですので、本能的に動く子どもたちを一生懸命お世話していただくというところが多分にあるのではないかなと思います。そのご苦労を考えたら、本当に頭のさがる思いです。統合のことを考えていった場合に、どうしても学校は安心して預けられるところでなければいけないと思います。生徒指導で困るとか、いろいろと問題を抱えるとか、そういうところをできるだけ排除していきたいと考えますし、そのためのスタッフを揃えていきたいと常日頃から思っています。その学校運営をする場合に、どうしても各学年リーダーになる経験値の高い先生、それから一生懸命動いていただける若手の教員が、昔であれば配置ができていましたが、いま現在はその配置が非常に難しい状況になっています。その若手の先生が、そこまでの体力、そして能力、熱意といったところがなかなか育ちにくい環境に学校はあるのではないかなと思います。なぜかと言いますと、雑務が非常に多過ぎます。ICTの授業を進めていくにも、その時間が非常にかかります。そのようなことが好きな先生は、割と趣味的にどんどんこなしていきませんが、そうでない方はストレスがどんどん溜まっていきます。溜まっていったら、働き方改革ではありませんが、部活が終わってからちょっと残って次の日のことをまとめてから帰ることが毎日繰り返されます。私たちの若い頃のように、ある程度きたら大体でええわと帰っていったような状況では今は実はないんです。ですので、そのこのところも考えながら、中学校の方も運営していかなければいけないですし、そのための人材は確保すべきかなと思います。1校になると、そのこのところは人数的に制約があって難しいです。ですので、2校体制というのが、最初の段階としては望ましいのかなと思います。学校を荒れさせないためにも、宍喰中のいいところ、海陽中のいいところをどんどん提示しながら、安定・安心した学校運営をしていき、そして地元の高校につないでいく。高校も最近はグローバル化していますが、できるだけ地域やふるさとを愛する子どもたちを高校へ送っていく。そうすれば、まちづくりにもつながっていくのかなと思います。海陽町が好きで戻ってくるような出合いを大切に、人と人とのつながりをきちんともっていけるような子どもたちが育っていくのではないのかなと思っています。ですので、一気に統合ではなくて、教育長が示されたとおり、段階を経て、その時の状況に応じて進めていくべきなのかなと感じています。

(登井委員長)

ありがとうございました。先生の配置といった部分でご意見をいただきました。

(事務局・三浦教育長)

教員の配置につきましては、学級数によって定数が決まります。例えば、再編・統合しても、クラス数が変わらなかったら先生の数是不会変わります。恐らく再編・統合したら何年間かは県の加配があるかも知れませんが、すぐに引き上げるでしょう。今の状況のなかで、1校・1校体制になるのと、2校・2校体制になるのでは、海陽町内の教員の数は全然変わってきます。これから、次代を担う子どもたちの教育のために頑張るという人の働く場や機会が失われます。今でも教員が少ない、町出身の教員が少ない状況になっています。学校が減ってくると、なおさら拍車がかかってきて、人材の確保も難しくなってくるのではないかと考えています。

(登井委員長)

他に、アンケートを見て感じたことなどありませんか。小学校・中学校に求めることについて、居場所の意見も多いですが、やはり防災の拠点としてという考えが両方ともに結構な割合が出てきていますので、これは必要不可欠な視点だと感じました。防災の拠点として、どう学校を見ていくのかということが大事だと思いますが、皆さんはどのように感じますか。

(福田委員)

学校側として、一番心配していることだけをお伝えします。校舎が古くなっています。補強はしていただいているのですが、昔の建築設計基準で基本的に建てられていますので、震度6強では、補強している部分は残ったとしても崩れていくのではと思っています。既にクラックも入っていますし、子どもたちの安全は少し確保しにくいのかなとも思っています。熊本で起こった震度7というような直下型の地震が起こったり、南海トラフのような揺れの時間が長いプレート型の地震が起こったとしたら、1分以上揺れ続けると、もう校舎はクラックが入っているところから崩れていくのではないかなとも思っています。ですので、震度7基準の校舎があれば、保護者の方も安心して預けられるのかなとも思います。また、建っている部分がせめてイエローゾーンから外れているところに校舎があればいいのかなとも思っています。そうすると、洪水であるとか、土砂災害であるとか、そういうところもクリアされます。その校舎で、指定避難所として生活することも可能になるのかなとも思います。ラッキーなことに、海陽町は海南病院もありますし、すぐそばには海部病院もあります。消防関係も全部ありますし、今日の新聞にも載っていましたが、道路も計画としてはできつつあります。今の状況でしたら、国道55号線も止まってしまいました。昨年も実際に線状降水帯で止まってしまいました。そういうところも、これから進め

られていくのかなと思います。今の学校というのは、海南小、海陽中、穴喰小、穴喰中、海部小ともに、引き渡し訓練ができない、または非常に難しいです。親は車で来て、子どもを連れて帰りますが、そのローテーションがなかなか難しいのです。そこもクリアされた施設設備ができれば、なおいいのかなと思います。ただ、多大なお金がかかるので、難しいのかなと思っています。

(皆津委員)

大雨や洪水については、穴喰が靦面なので、積極的に安心・安全を守るために取り組んでいてもらいたいです。

(登井委員長)

地震だけでなく、毎年どこかの町で洪水が発生して被害が拡大しているところを見ますと、学校のあり方検討委員会では当然このような視点でも話し合いをして、このような方向で学校をこのようにしてはどうですかという意見をまとめていったらいいのかなと思います。

(福田委員)

実は8月18日に穴喰中の体育館で、穴喰の小5・小6・中1・中2・中3を対象に、避難所運営の課題解決学習を大学の先生を呼んで実施しました。避難所運営というのは、実際それが行われると、子どもからお年寄りまでみんな一緒になります。そこで、さまざまな問題が発生して、それが煮詰まってしまって、動けなくなることが多分にあります。それを、子どもたちは子どもたちでできることは何か、教職員は教職員でできることは何かということテーマにして実施しました。小5から中3までの子どもたち約60名が、縦割りの6班編成で実施しました。中3が司会をしながら回していきました。非常にいい意見が子どもたちの方から出て、それを聞いて穴喰小の職員集団、穴喰中の職員集団が後から先生方が考えたことを提示するといったことを実施しました。学校には防災管理マニュアルというものがありますが、全部熟読して、こうなったらこう動こうと考えているかということ、担当の教員以外は実際なかなか難しいのが現実です。アクションカードといって、こうなったらこうしようということは提示していて、子どもたちもそういう風な形で動ける体制を海陽町の場合はとるべきだなと思います。また、問題が出てきたら、自分たちで話し合っただけで動いて、ちょっと上の子どもたちがリーダーとなって動けるような形をとるべきなのかなと進めています。練習していなかったらできませんので、新しい防災のあり方として少しずつ進めていることを知っておいていただけたらと思います。

(登井委員長)

この実践を毎年繰り返していくと、力がついていきますよね。中学生が当然あがっていく

ますから。

(福田委員)

昔だったら、子ども会活動でいろいろな話をしていました。子どもがたくさんいる時は。今は小学校の子ども会活動というものはなくなって、その子ども会の小学6年生のリーダーがどうこうするというのは消えていっていますよね。遊びでも、小学6年生の子がリーダーとなっていていろいろな遊びをしていましたが、それが今は子どもが少なくなっているので、なくなりつつあります。子どもたちが自主的に話し合えるような形がとれないかなという一つの試みです。

(登井委員長)

非常にいい実践を報告していただきました。他にいかがでしょうか。感想でもいいですので、三浦委員いかがですか。

(三浦委員)

三十八の娘が最後卒業してから、孫たちも県外なので、学校に関してはまったく今の状況がわかっていませんでしたが、この会に出席して、今このような状況になっているんだなと勉強させてもらっています。

(登井委員長)

谷口委員いかがですか。

(谷口委員)

将来的には、人数が少なくなれば1校・1校もあり得るのかなと思いますが、海陽町は、発達障がいグレーゾーンに対するフォローがいろいろと手厚いので、それが小学校や中学校へあがっていくと、先生方は雑務も多いとのことでしたが、時間がすごく取られると思います。クラス替えをして、いろいろな子どもと接することで刺激をもらって成長する子どももいれば、手厚いフォローがいる子どももいますので、何が子どもにとっていい環境なのかは難しいと思います。不登校や学校へ行きにくいけれど、頑張っ学校へ行きたいからこちらの学校を選ぶとか、牟岐の中学校へ行ってみるという子どもの話を聞いたこともあります。人数が少ないなりにそういう選択肢がある町の学校体制が好ましいのかなと思います。それで、先生方も人数がたくさん確保できるのであればと思いながら聞いていました。

(登井委員長)

ありがとうございます。アンケートの自由記述の意見の中にも、発達障がいの方への手厚いフォローがあればなという声もありましたので、そのようなことも考えていくべきだろ

うかとも思いました。子どもたちにとって、どれが一番いいのかというのをなかなか我々で考えていくのは難しいですが、それでもやっぱり誰かが話をして、進めていかなければなりません。この場でこのメンバーでこういう意見でしたというのを教育委員会の方に送って、そして教育委員会や議会の方で判断していただくということですので、どんどん意見を言っていて、できるだけいろいろな立場から話を、まとめていけたらなと思っています。議題1も含めて、何かご意見ありましたらお願いします。

(辻委員)

防災のことですが、私は子ども館で放課後に子どもを預かっていますが、子ども館にいる時に大雨や地震があったらどうするのかといったことを、小学校といつも話をしています。学校であれば、先生方がたくさんいらっしゃる、見てもらえて連絡もできます。私たちも子ども館で、先生方と相談しながら防災マニュアルをつくって、こういう時はこうしますよといったことを決めています。最低でも1学期に一回は避難訓練をしていますが、保護者の方にしたら、預けているのに警報が出たら子どもたちに怪我をさせたりしたら大変だなということを思っているんです。学校に早く避難させないと思っていますが、なかなか子どもたちも1回ではできません。これからも天災や地震も多いので、できれば子ども館でも子どもの命を守らないといけませんので、できれば校長先生方が月1回話し合いをしていますので、マニュアルをしっかりと決めて、子どもたちを守っていくような方法をこれから考えていきたいなと思っています。

(登井委員長)

放課後子ども教室といったところで、もしも地震などが起きた時にどうするのかということ、子どもたちや保護者、指導してくださる方とよく相談し、何回もやることが大事ではないかと思います。それでは、その他も含めて、ご意見ございませんか。

■議事3 その他

(井口委員)

今回のアンケートで意見はいろいろあると思いますが、批判的なものもある中で、今まで統合・再編してきた学校の経緯とか、またそういった時の町民の意見とか、そういうところを次回までにまとめていただけませんか。同じようなことがまた起こるかもしれませんので、そういう準備はしておく必要があるのかなと思います。初代校長先生に聞くなり、過去の経緯とか見てもらうなどしてもらえたらいいかと思います。

(事務局・三浦教育長)

平成23年度の記録は残っている気がします。

(井口委員)

当時も同じように議論してきたんですか。

(事務局・三浦教育長)

もちろんしています。

(登井委員長)

三浦委員、合併について覚えていることなどはありませんか。

(三浦委員)

合併で覚えがあるのは、中学校が川西と川東で合併したくらいです。

(皆津委員)

宍喰のことですが、杭瀬小学校があったでしょう。杭瀬小学校は3人まで頑張ったんです。子どもや孫が行っていなくても、掃除や草刈りに地域の人が行っていました。私が勤務したことがある学校に角坂小学校がありますが、ここはまだ力のあるうちに合併しました。まだ30人から40人くらいいるうちに、宍喰小学校と一緒にになりました。というのが、やっぱり自分たちの意見が本校でも言えるというか、まだ数があるうちに一緒になって、自分たちの意見も一緒に入れて子どもたちをよくしていこうという考えがあったのではないかなと思っています。

(井口委員)

私たちも竹ヶ島分校があった時代なので、引き上げる時にこのような意見があったとか資料などがあれば、その当時の人に街角で話をする程度で聞いてもらえていたらと思います。同じようなことが起こる可能性もありますので。

(事務局・三浦教育長)

資料は探してみないと分かりませんが、いくつか委員会はしています。

(皆津委員)

もしかしたら、町史などに学校の記録などが残っているかもしれませんね。

(事務局・三浦教育長)

海部中と海南中は、再編・統合する前よりも、決まってからの方が割合あつという間に進みました。

(登井委員長)

他に何もなければ、次回のことも含めて事務局にお返ししたいと思います。

(事務局・森崎教育次長)

次回の開催ですが、10月を予定しています。近づいた段階で案内を送らせていただきますが、資料につきましてはまとまり次第、事前にお送りできればと考えています。予定では、アンケート調査結果の報告や計画素案等の内容についてお話をしていくことになりますので、またよろしくお願ひしたいと思います。

以上をもちまして、本日の委員会を終了したいと思います。ご協力どうもありがとうございました。

閉会